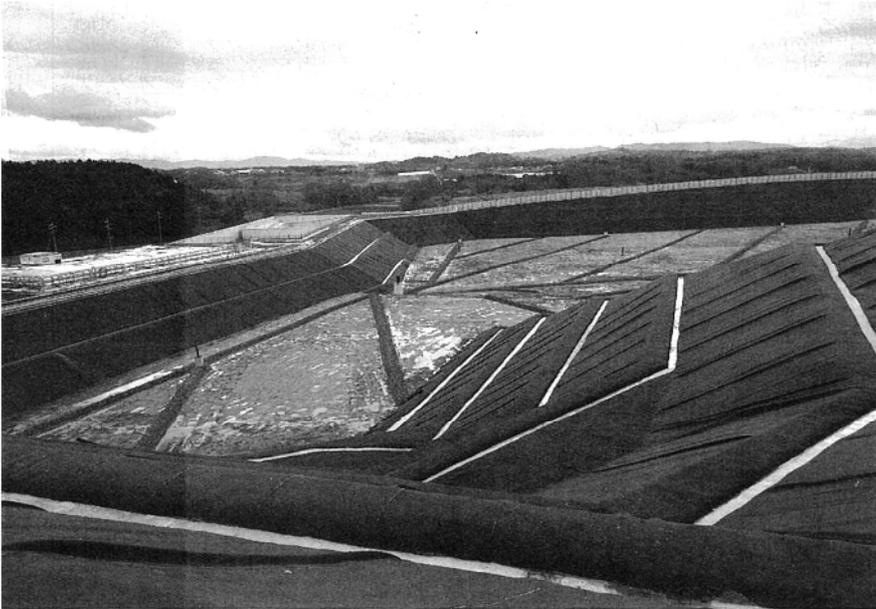


国内最大規模の管理型処分場が完成



完成した新規管理型処分場

三重中央開発

7日から搬入開始

ふれあい感謝祭も開催

大栄環境グループの三重中央開発（三重県伊賀市）は産業廃棄物・一般廃棄物の最終処分容量確保を図り処分場の増設を進めていたが、このほど新規の管理型最終処分場が完成、7日から搬入を開始した。最終処分場の埋め立て容量は、既設・新規を合わせて616万5896立方メートルで国内最大級となる。施工は大林組が手掛けた。排水のクロロスド化を図り、プラント用水として循環利用するのが特徴となっている。また、5日には地元住民などを招いて「三重中央開発ふれあい感謝祭」と、マスコミなどへの新処分場お披露目会も開催した。ふれあい感謝祭には約2100人が参加した。

同社の最終処分場の敷地面積は28万1311平方メートル（うち増設分10万2172平方メートル）、埋め立て面積21万6491平方メートル（同7万3542平方メートル）、容量616万5896立方メートル（同329万立方メートル）となっている。埋め立て計画は22年。

取り扱う廃棄物の種類は、産業は燃え殻、汚泥、ゴムくず、廃プラスチック類（石綿含有産廃を含む）、紙くず、木くず、繊維くず、動植物残渣、金属くず、ガラスくず等（石綿含有産廃を含む）、鉱さい、がれき類（石綿含有産廃を含む）、ばいじん、処分するため処理したもの、特定有害廃石綿等、一廃はし尿

処理施設や生活排水処理施設から発生する汚泥等、粗大ごみ、焼却灰で、浸出水処理能力は日量500立方メートルとなっている。総投資額（水処理含む）は50億円。

ふれあい感謝祭では舞台コーナ、縁日コーナ、大栄環境グループの紹介や環境クイズなどを、三重中央開発エコブースなどを設置。ステージでは白鳳太鼓、ニンニクショー、ショー、テック&トモショー、上野ウィンドアンサンブル、齋門達夫ショーなどが行われ、大人から子供まで楽しめるイベントとなった。オープニングセレモニーには岡本伊賀市長も出席した。



ふれあい感謝祭ではエコブースなどが設置された

処理施設や生活排水処理施設から発生する汚泥等、粗大ごみ、焼却灰で、浸出水処理能力は日量500立方メートルとなっている。総投資額（水処理含む）は50億円。